

高嶺格・吉岡洋とのワークショップ

司会・聞き手：太田純貴（鹿児島大学）

11/25 Fri. 14:30-17:40

鹿児島大学郡元キャンパス3号館103教室

入場無料／入退室自由

※下記の申し込みフォームから必要事項をご記入のうえ、ご参加ください



高嶺格氏（作家／演出家）は、インスタレーション作品やパフォーマンスなどによって、セクシュアリティやエスニシティ、エネルギーをめぐる問題にアプローチしてきました。今回は、高嶺氏と、高嶺氏の展覧会（「[大きな休息] 明日のためのガーデニング1095㎡」）を監修するなど、高嶺氏と親交の深い吉岡洋氏（哲学者）を招聘したワークショップを開催します。吉岡氏の批評なども手掛かりに、高嶺氏の商品・活動について、そしてそれらを通して、考えてみたいと思います。

高嶺格（多摩美術大学彫刻学科教授）

1968年鹿児島生。東京在住。90年代、ダムタイプにパフォーマーとして参加。その後、個人作品として観客と作品の双方向性を志向するインスタレーションや、映像・音響メディアを取り込んだ作品を発表。2000年代以降には、身体を通して表現する数々のパフォーマンスにも取り組む。音楽家やダンサーとのコラボレーション、舞台演出などジャンルを越境する幅広い表現活動に携わる。近年の個展に2012年「高嶺格のクールジャパン」（水戸芸術館現代美術ギャラリー）、2016年「兄弟」（TKG、台北）など。著書に『在日の恋人』（河出書房新社）がある。

吉岡洋（京都芸術大学文明哲学研究所教授）

1956年京都生。甲南大学教授、情報科学芸術大学院大学（IAMAS）、京都大学文学研究科教授（美学芸術学）、同大学こころの未来研究センター教授を経て、現職。『情報と生命』（新曜社）『〈思想〉の現在形』（講談社）をはじめ、美学芸術学、現代思想、情報文化論に関わる著作、翻訳など多数。研究活動に加え、『ダイアテキスト』（京都芸術センター刊）など批評雑誌の編集、『京都ビエンナーレ 2003』、『岐阜おおがきビエンナーレ 2006』などの総合ディレクターとして企画を行う他、映像インスタレーション作品「BEACON」（1999-2020）の制作にも加わってきた。



◀申し込みフォーム

※11/22までにお申し込みください

- ・マスクを着用し、体調にご留意の上ご参加ください。
- ・駐車スペースは限られておりますので、可能な限り公共交通機関をご利用ください。
- ・会場については鹿児島大学のHPをご参考ください。

問い合わせ：太田純貴研究室 (yota@leh.kagoshima-u.ac.jp)